楢葉町の復興に向けた取り組みについて

福島県　楢葉町長　松本幸英

平成30年10月18日

1　震災前後の楢葉町

2　避難指示解除までの歩み
3　復興に向けた取り組みについて
4　おわりに

楢葉町について

- 福島県浜通り地方の中程に位置する楢葉町は、比較的寒暖の差も少なく、一年を通して過ごしやすい。
- 町の８割は山林。町を木戸川、井出川が流れ、鮭の遡上や鮎などが生息する恵まれた自然を有する。
- 町の北側に昭和５７年に運転を開始した東京電力福島第二原発が立地。また、町の面積の約８割が福島第一原発の半径２０km圏内に位置する。

人口	：6,990人（H30.9.30現在）
面積	：103.65km²
主要産業	：農業、建設業、製造業

楢葉町のマスコットキャラクター
「ゆず太郎」

震災以前の楢葉町（１）

木戸川渓谷（雄滝・雌滝）

上繁岡大堤
（飛来する白鳥）

木戸川（鮭）

震災以前の楢葉町（２）

天神岬スポーツ公園

岩沢海水浴場

Ｊヴィレッジ

震災後の主な経緯（避難指示解除まで）

平成２３年

３月１１日　震度6強　東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）発生
原子力緊急事態宣言（東電福島第一原発）
３月１２日　町の判断で全町民へ避難指示⇒避難開始
４月２２日　福島第一原発／半径20㎞圏内・警戒区域の設定
９月３０日　緊急時避難準備区域が解除

平成２４年

８月１０日　警戒区域解除（避難指示解除準備区域に再編）

平成２５年

５月２４日　楢葉町復興計画〈第二次〉策定

平成２６年

３月１８日　帰町計画策定
５月２９日　帰町の判断を表明
６月　１日　ＪＲ常磐線「広野駅～竜田駅」間運行再開
現地役場に「帰町準備室」を設置。
７月３１日　ここなら商店街オープン

平成２７年

４月　６日～　準備宿泊開始
６月１９～２８日　住民懇談会開催（８回、計359名参加）
７月　６日　国から楢葉町に対して避難指示解除の伝達

東日本大震災

- 平成23年3月11日14時46分に三陸沖を震源とするマグニチュード９の地震が発生、震度6強を記録。推定10.5mの津波が襲来した。
- 死者・行方不明者１３名。重傷者２名。浸水１２５戸。

津波の様子（天神岬スポーツ公園から木戸川方面を望む。）

被害の状況

避難所の様子

家畜・家屋等の被害

放置したことによる影響

- ネズミ・ダニ・のみの異常繁殖
- 屋根瓦の損壊に伴う雨漏れ
- カビ臭、家財の腐敗
- 貴重品の盗難　等

1　震災前後の楢葉町

2　避難指示解除までの歩み

3　復興に向けた取り組みについて

4　おわりに

避難指示解除までの歩み（１）

○警戒区域内への
一時立ち入り（一時帰宅）

- 一世帯2名以内
- 滞在時間は2時間以内
- 持ち帰れるものはごみ袋
  1つに入る物まで（線量検査）
- 区域内での飲食禁止

避難指示解除までの歩み（２）

住宅地除染（ブロック塀の高圧水洗浄）

森林除染（堆積物除去）

住宅地除染（屋根のブラッシング）

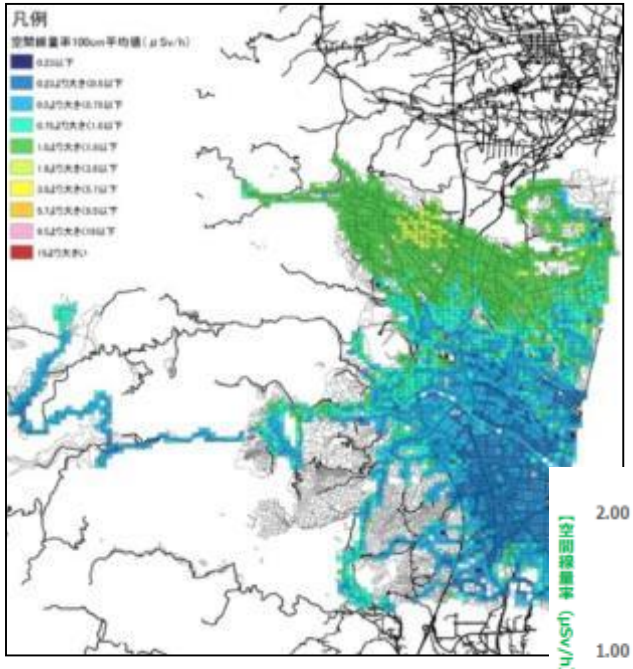
芝生の剥ぎ取り（総合グラウンド）

避難指示解除までの歩み（３）町内の放射線量（除染の効果）

- 国直轄除染が平成26年３月に終了し、現在は事後モニタリングの結果を踏まえてフォローアップ除染を実施中。
- 町内の宅地の空間線量率の平均値は0.20μSv/h。除染前平均値から72%低減。

除染前

（平成24年６月～平成26年３月）

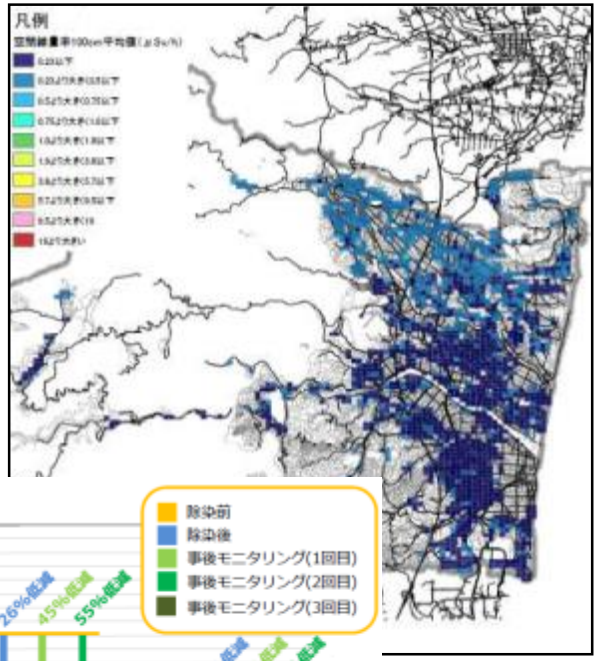


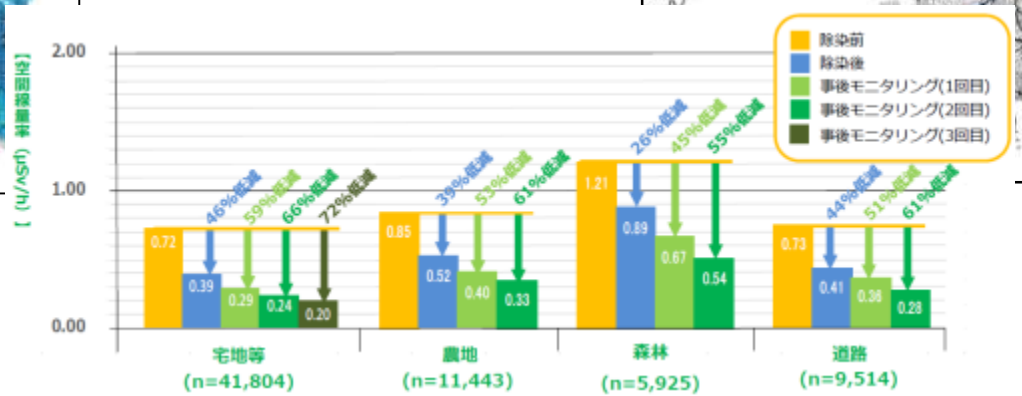
除染の実施

（平成24、25年度）

事後モニタリング

（平成28年５月～平成29年２月）





避難指示解除までの歩み（４）

平成24年8月10日
警戒区域解除（避難指示解除準備区域に再編）

平成26年5月29日　帰町の判断

平成26年6月1日　常磐線竜田駅まで運転再開

平成26年7月31日　仮設商店街 オープン

1　震災前後の楢葉町
2 避難指示解除までの歩み
3 復興に向けた取り組みについて
4 おわりに

避難指示解除後の歩み（１）

平成２７年

９月　５日	**楢葉町全域における避難指示が解除**
９月１９日	**サイクリングターミナル（宿泊施設）、しおかぜ荘（温泉施設）再開**
１０月１９日	ＪＡＥＡ楢葉遠隔技術開発センター開所式
１０月３０日	木戸川鮭漁の復活
１１月　４日	デイサービスセンターやまゆり荘が再開

平成２８年

１月２５日	楢葉町復興計画第二次（第二版）版策定
２月　１日	**県立ふたば復興診療所（ふたばリカーレ）開所**
３月　１日	ふたば農業協同組合楢葉支店が営業再開
３月３０日	特別養護老人ホーム（リリー園）が再開
４月２１日	東邦銀行楢葉支店が営業再開
７月　７日	楢葉町地域文化交流拠点「楢葉まなび館」ｵｰﾌﾟﾝ
９月　４日	楢葉町町制施行６０周年記念式典

平成２９年

４月　６日	**楢葉町内の小中学校再開**
４月　７日	**〃　こども園再開**
６月２７日	災害公営住宅（中満）全戸（123戸）完成
９月　４日	笑ふるタウンならは商業・交流施設起工式

平成３０年

３月３１日	**仮設住宅等供与終了（特定延長を除く。）**

平成27年9月5日
復興記念式典の様子

避難指示解除後の歩み（２）

平成27年9月19日　天神岬温泉しおかぜ荘再開

平成28年2月1日　ふたばリカーレ開所

平成29年4月　楢葉町内の小中学校・こども園再開

平成30年3月　仮設住宅等の供与終了

町の人口と町内居住者の状況

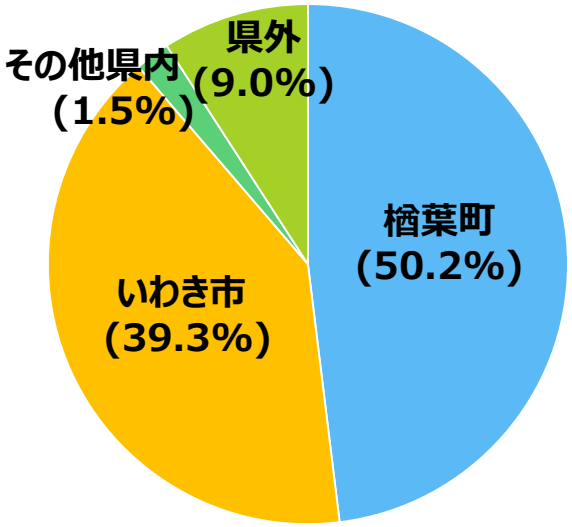
（平成30年9月30日現在）

楢葉町人口	６，９９０名（２，９５１世帯）
うち町内居住者数	３，５１０名（１，７８９世帯）
町内居住率：**５０．２％**	

町民居住地分布（平成30年9月30日現在）

県内　６,３６７名（９１．０％）		県外　６２３名（９．０％）	
いわき市	２，７５１名	茨城県	１８５名
郡山市	９１名	埼玉県	７８名

※町民からの届出等に加えて、現地調査により居住を確認した人数。



住基人口の約５割の町民が楢葉町に居住

ならは 復興は今ここまでMAP

屋内体育施設

楢葉町総合グラウンド内に、体育館及び屋内プールを有する屋内体育施設を整備中。平成31年春完成予定。

学校再開

○平成29年4月に学校再開
○小中学校同一校舎において連携型教育

楢葉北産業団地

○新たな企業の誘致

竜田駅周辺整備

○竜田駅東側
・東西自由通路・橋上駅舎の整備
⇒平成32年度供用開始予定
・駐車・乗降場がある駅前広場の整備
・廃炉関連事業所及び宿舎等を整備
○竜田駅西側
・まちづくり計画の策定

井出川～井出地区海岸

○堤防復旧工事が進む

ならはスマートI．C

平成31年3月供用開始予定
○地域経済の活性化　○避難経路の確保
○救急救命活動の向上

笑ふるタウンならは

○災害公営住宅140戸ほか宅地分譲地も一部販売開始
○商業施設は、平成30年6月26日オープン
○交流館は、平成30年7月30日オープン
○ふたばリカーレ、蒲生歯科が開業中

木戸川河口部

○堤防復旧工事が進む

楢葉まなび館

生涯学習などの拠点として平成28年7月にオープン

新生Jヴィレッジ

○平成30年7月28日に一部営業再開。9月に全天候型練習場オープン。
○平成31年春に全面再開予定。JR「Jヴィレッジ駅（臨時駅）」も開業予定。

楢葉南工業団地

写真提供：
○新たな企業の誘致
○楢葉遠隔技術研究センター

新たな町並みへの開発・整備

- 楢葉町復興計画の土地利用計画に基づき、平成２６年３月に「楢葉町土地利用計画アクションプラン」をとりまとめ、新たな町並みへの開発・整備を推進。

【プランの概要】

○エリアの整備

- 本アクションプランで検討した基本計画を基に、①竜田駅東側エリア、②コンパクトタウン（笑ふるタウンならは）、③産業再生エリアについて整備を推進。

○幹線道路等の強化

- また、３つのエリアが有機的に連携できるよう南北方向の幹線道路を強化。
- また、東西方向の路線を整備することで格子上のネットワークを構築。

【今後の土地利用のイメージ】

竜田駅周辺整備

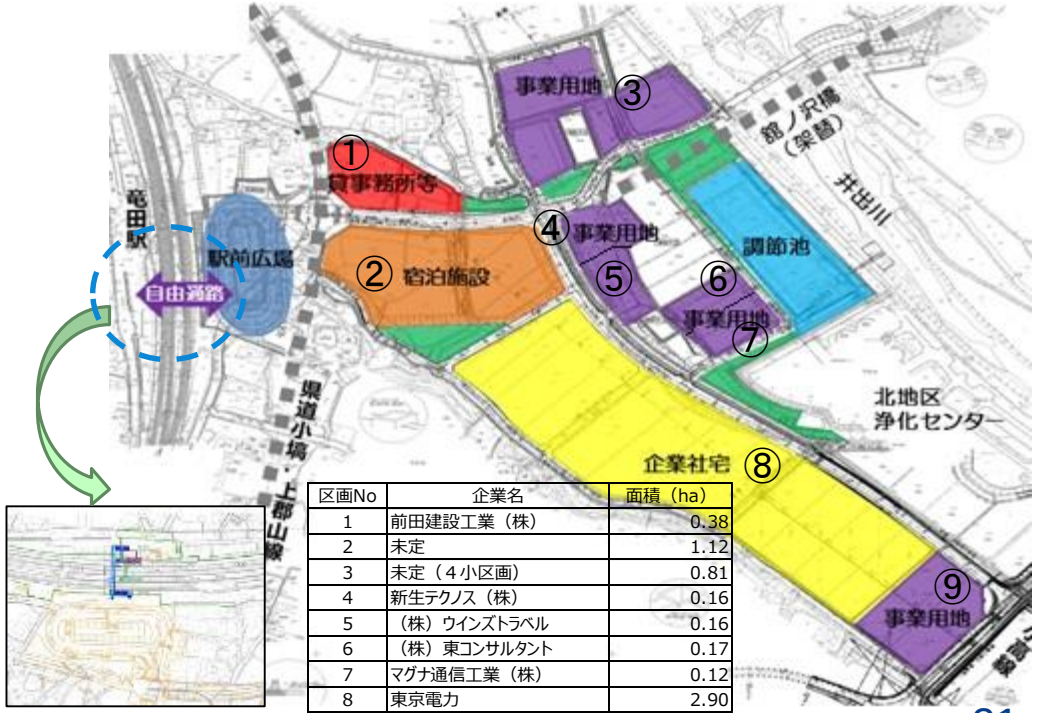
【東側エリア】

➢ 地域活動における多様な機能の結節拠点の形成を図るため、東西自由通路及び駅前広場、居住・宿泊エリア等の整備を進めている。

・東西自由通路及び橋上駅舎
　ＪＲ東日本との間で設計を進めており、平成３２年度供用開始予定。

・企業宿舎（３５０戸）
　平成２９年３月から一部供用開始。
　平成２９年６月に完成。

・事業用地（約２ｈａ）
　廃炉関連事業者が進出（事務所等敷地として利用）を予定。



区画No	企業名	面積（ha）
1	前田建設工業（株）	0.38
2	未定	1.12
3	未定（４小区画）	0.81
4	新生テクノス（株）	0.16
5	（株）ウインズトラベル	0.16
6	（株）東コンサルタント	0.17
7	マグナ通信工業（株）	0.12
8	東京電力	2.90
9	未定	0.37

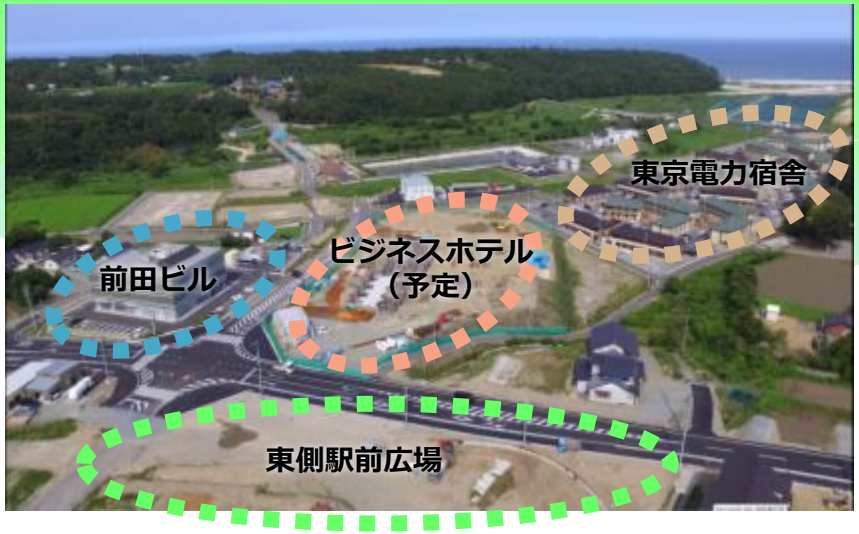
【竜田駅周辺拡大図】

【西側エリア】

➢ 家屋解体による空洞化が著しい駅西側市街地については、住民参加型ワークショップを開催し、復興まちづくり計画を策定した。

竜田駅周辺の現況

竜田駅西側航空写真



竜田駅東側航空写真

竜田駅 駅舎

竜田駅駅舎から見た駅西側風景

新たな街並み「笑ふるタウンならは」の形成①

- 町民や町内事業者の暮らしの再生と新たな居住を促進するため医療・福祉・商業・交流施設が集積した活力ある生活拠点を形成する。

・商業交流ゾーン

平成２９年度から造成工事、商業施設等の建築工事に着手し平成３０年**６月２６日**に開業。また事前WSで利用者意見を取り入れた交流館も**７月３０日**にオープン。

出店業種（９店舗）	
スーパー	パン屋
ホームセンター	クリーニング店
理容店	喫茶店
飲食店(3店舗)	

【商業施設「ここなら笑店街」】

【計画平面図】

・住宅ゾーン

災害公営住宅１４０戸完成。分譲地（宅地８区画）完売。分譲地第２工区（戸建て３１区画、集合住宅６区画）は平成３０年夏完成予定。

【みんなの交流館ならはCANvas】

・医療福祉ゾーン

県立のふたば復興診療所（愛称：ふたばリカーレ）」、蒲生歯科医院が開業中。

新たな街並み「笑ふるタウンならは」の形成②

平成30年6月「ここなら笑店街」開業式典

平成30年6月 「ここなら笑店街」開業式典

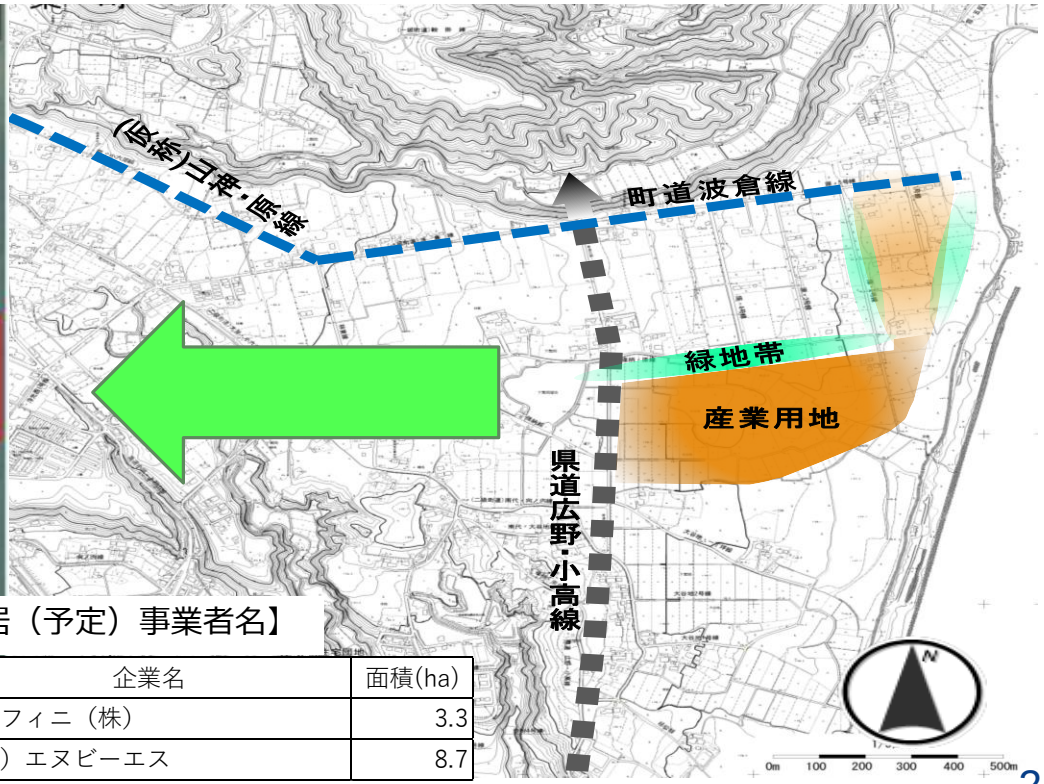
平成30年7月 「みんなの交流館ならはCANvas」開業

平成30年7月 「みんなの交流館ならはCANvas」開業

産業再生エリアの整備

- 町民の継続的な就労の場を創出するため、双葉郡における産業を支え、産官学が連携して継続的に発展する研究産業拠点の実現を目指す。
  - ・廉価で一団の産業団地の形成
  - ・廃炉関連企業等の集積による生産性の向上
  - ・企業進出に伴う就労機会の確保

【楢葉北産業団地】



【入居（予定）事業者名】

No.	企業名	面積(ha)
1	アンフィニ（株）	3.3
2	（株）エヌビーエス	8.7

新生Ｊヴィレッジ①

National Training Center J-VILLAGE 2018夏 再始動!

楢葉町 NARAHA TOWN

楢葉町・広野町にまたがる、サッカーのナショナルトレーニングセンターJヴィレッジ。震災前はサッカーの聖地でしたが、震災直後から廃炉の最前線基地として活用されました。2018年7月28日に一部再開し、秋には全天候型練習場もオープンし、全面開業できる見通しです。

経緯

震災前のＪヴィレッジ

○サッカーの聖地

- 国内最大規模（天然芝11面）
- ＪＦＡアカデミー福島の活動拠点
- 年間 50万人の来場者
- 宿泊者数　年間40,000人

Ｊヴィレッジの利用実績

サッカー日本代表合宿

- 男子W杯日本代表（7回）
- 女子W杯日本代表（12回）
- 2000年シドニーオリンピック日本代表

ラグビー日本代表合宿等

- ラグビー日本代表
- セコムラグビー部
- 釜石シーウェイブ　他

海外代表チーム合宿

- アルゼンチン代表（2002年日韓W杯）
- チリ代表　ニュージーランド女子代表 他

少年サッカー大会・合宿等

- U19、U18、U15等　日本代表合宿
- 全日本少年サッカー大会（毎年）

2011.3.11 原発事故

震災後のＪヴィレッジ

○原発事故収束の前線基地

- 政府・東京電力が全面使用（営業休止）
- グラウンド → ヘリ発着所、車両除染場、駐車場等
- センターハウス → 政府、東京電力の対応拠点

- 原発事故による根強い風評
  ⇒利用者の減少（特に子ども達・海外チーム）

2020年 東京オリンピックを目指し
Ｊヴィレッジ復興プロジェクト始動
２０１８年（平成30年）　夏 再始動
※2019年 4月グランドオープン

新生Ｊヴィレッジ②

【3番ピッチ】

【4番ピッチからセンター棟】

2015.2.9

2017.2.28

2017.11.19

新生Ｊヴィレッジ③

National Training Center J-VILLAGE 2018夏 再始動!

楢葉町 NARAHA TOWN

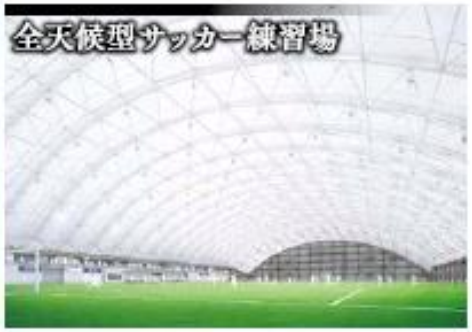
宿泊棟　定員476名

ツインルーム　×43室
フォースルーム×38室
ジュニアスイート×２室
シングルルーム（新棟）×117室
コンベンションホール225名（シアター形式）
セミナールーム　160名
会議室 30名程度×４室
大浴場完備

ピッチ概要

全天候型練習場(人工芝)
天然芝　7面
人工芝　2面
雨天練習場（人工芝ハーフコート）
スタジアム（天然芝：収容5,000名）
プール（25m 4レーン）
体育館施設（33.6m×19.8m）

※赤字は新たな増築部分



Ｊヴィレッジの再開と新駅の設置

農業の再生①

【営農再開に向けた支援】

➢ 町の基幹産業である、本格的に再開を目指す農業分野において、楢葉町復興計画に基づき営農再開を支援していく。

○ **営農再開状況**

・水稲：３２戸、約５８ha作付（震災前：５５５戸、約４１０ｈａ）
⇒H29年産玄米全量全袋検査結果：3,571点、全量基準値(100Bq)以下

・畑作：甘藷（さつまいも）　２戸　約１３ｈａ作付
　　玉ネギ　　１戸　約1.8ｈａ作付

・花き：トルコギキョウ等　　４戸　約４０ａ作付

・畜産：酪農牛　１戸　７６頭
　　繁殖牛　２戸　３２頭
　　（震災前　約４０戸　約４００頭）

平成29年4月　安倍総理大臣
蛭田牧場視察の様子

○ **営農再開に向けた取組**

・農地保全：農業組合等による農地保全（H29FY耕起・草刈：約500ha)

・ｲﾉｼｼ捕獲：有害鳥獣捕獲隊による捕獲（H28FY捕獲：359頭）

・ならSUNマルシェ：町内で栽培された野菜等をここなら商店街で販売

○ **営農に向けた支援策**

原子力被災１２市町村農業支援制度による支援のほか、町独自の取組としていきいきアグリ復興基金を造成し、やる気のある営農者を支援する。

農業の再生②

※原風景とは
楢葉町の基幹産業であった水稲等の農業の風景が広がっているイメージ

＜カントリーエレベーターイメージ図＞

※カントリーエレベーター：穀物の貯蔵施設の一種で、穀物搬入用エレベーター、大型蔵庫・乾燥機などからなる施設

＜水稲育苗施設イメージ図＞

＜ならSUNマルシェの様子＞

魅力ある教育環境づくり　町内での学校の再開①

【学校等への通学者】

	震 災 前 （22年度末）	仮設校舎 （29年3月）	町内再開 （29年4月）	現　状 （30年7月）
小・中学校	686人	129人	105人	102人
うち小学生	432人	72人	62人	69人
うち中学生	254人	57人	43人	33人
こども園	247人	40人	38人	66人

【学校再開に向けた基本方針】

学校・地域・行政が一体となって、ならはならではの魅力ある**日本一の教育**を提供することを目標に、「**寄添い力**」や「**地域力**」の強化を図りながら、**地域の一員として成長できる教育**を実践する。

魅力ある教育環境づくり　町内での学校の再開②

【具体的な取組み】

① 放課後等の学習支援
- 民間教育支援事業者・学習塾による放課後、夏冬休みの学習会
- 高等専門学校・大学および学生サークルなどによる学習支援など

② 通学支援（スクールバスの運行）
- スクールバスによる送迎（町外通学者は最寄駅までバスを運行）

③ ＩＣＴ教育及び英語教育の充実
- タブレット端末等を活用したＩＣＴ教育の実施
- ＡＬＴの配置やブリティッシュヒルズ語学研修など

④ 安全ネットワークの構築・活用
- 町安全見守り協議会による通学路巡視・登下校立哨の実施など

⑤ その他
- 就学支援（学用品費等の補助）、自校給食、図書室支援員の配置など

【新規プロジェクト】

① 中学生によるまちづくりチーム「中学生室」の結成
- 中学生によるまちづくりチームを結成し、若年層と行政、企業、各種団体が連携し、次世代のまちづくりを実践。

② ハロ～！ロボット教育プロジェクトの発足
- 福島大学、JAEA、レゴブロックを用いた教育運営事業者などと多角的に連携し、ロボット教育（プログラミング教室、ＷＳ等）を実施。

魅力ある教育環境づくり　生涯学習拠点の整備

【楢葉まなび館】

- 平成２８年７月に旧楢葉南小学校校舎を楢葉町地域文化交流拠点「楢葉まなび館」とし、地域の生涯学習の拠点として整備。（開館時間：毎週平日　9:00～17:00）

【現在活動しているサークル】

・わらじ組　・和布細工工房ほのぼの　・華鶴会（日本舞踊）
・なにかし隊（藍染め、かかし作り）　・フットサル　・グラウンドゴルフ　など

【利活用事例】

家庭科室での藍染

図書室での学習会

体育館でのレクリエーション

歴史資料館分館

コミュニティ再生に向けた取組み

町民同士が助け支え合いながら暮らしていく「コミュニティ」を再生・再構築し、住民主体のまちづくりを目指し、以下の取組みを実施。

【ならは応援団/なにかし隊】

- 町内外からのアイディア、人材、資金等を集めることで復興を加速させるため、ならは応援団を募集し様々な活動を実施。
- また、ふるさと楢葉のために「なにかしたい！」という想いを持った町民が集まり、町民同士のつながりを深めるための様々な活動を実施。

（主な活動実績）花植え活動、かかし作り教室、藍染教室の開催など

＜なにかし隊によるかかし作り＞

【ほっつぁれDEいいんかいっ？！】

- コミュニティ構築や明るい話題を発信、継承していくことを目的とし、若者が主体となって集まり様々な活動を行っている。

（主な活動実績）盆踊り（盆楽祭）、音楽イベント（海の詩）、復興ＰＲ活動など

＜盆楽祭　盆踊りの様子＞

【心の復興事業】

- 震災前の「にぎわい」や、人と人との「つながり」を取り戻すため、心の復興事業を活用し、以下の活動を実施している。

（主な採択事業）

事　業　名	実施主体
花とみどりのプロジェクト	一般社団法人ならはみらい
伝統文化・行事継承とふるさと活性化プロジェクト	ほっつぁれDEいいんかいっ？！

＜上繁岡行政区の活動の様子＞

【行政区“草刈隊”の編成】

- 行政が実施している町道等の草刈りについて、各行政区毎に草刈隊を組織し、区内の草刈を実施。

今後の動き

平成30年

・笑ふるタウンならは 商業施設オープン（6月26日）
・　　〃　　交流館オープン　（7月30日）
・Jヴィレッジ一部営業開始（7月28日）

平成31年

・ならはスマートIC供用開始（3月頃）
・Jヴィレッジ全面再開、Jヴィレッジ新駅供用開始（4月）
・楢葉町屋内体育施設オープン（4月）

平成32年

・竜田駅東西自由通路及び橋上駅舎供用開始

本格復興期

可燃性除染廃棄物の処理終了（4月）

新生ならはの創造へ

1　震災前後の楢葉町
2 避難指示解除までの歩み
3 復興に向けた取り組みについて
4 おわりに